

1. 略歴

1982年3月	東京大学文学部I類宗教学宗教史学専門課程卒業
1982年4月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程入学
1984年3月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程修了
1984年4月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程進学
1987年9月	ブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科大学院博士課程（カナダ・ヴァンクーバー）入学
1990年8月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程退学
1990年8月	筑波大学地域研究研究科文部技官、哲学思想学系準研究員就任
1993年4月	筑波大学地域研究研究科（哲学思想学系）助手昇進
1994年5月	ブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科大学院博士課程修了
1995年4月	東京大学大学院人文社会系大学院宗教学宗教史学研究室助教授転任
2007年4月	同准教授（名称変更）
2009年4月	同教授
2011年4月	東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター長（兼任）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国古代宗教研究、祖先崇拜研究、死生学研究、生命倫理研究、応用倫理研究

死者にかかわる思想、表象、儀礼を比較文化的視点から考察することを中心的な目的とし、その目的の下に具体的な研究テーマを以下のように設定する。(A)「死者性」という概念（我々が死者をどのような存在として認識しているのか、また我々が死者とどのような関係を持っているのか、死者に対するイメージと記憶）をキーワードとして、宗教・世俗の枠を越えた死生学を構築することを目指した上で、具体的研究対象として、(B)古代中国における死ならびに死者に対する観念と儀礼の背後にある宗教的宇宙観と救済論、歴史を明らかにすること、(C)現代の生命倫理をめぐる言説の中に、死と死者に関わる考え方がどのように反映しているかを明らかにすること、という二つを設定し、その上で (D)伝統的な宗教的な価値観や感覚が、宗教という形態をとらずに現代社会に浸透している様を考えることを目指している。

b 研究課題

具体的な研究課題は以下のように区分できる。

まず、「死者性」概念に基づく死生学研究（上記(A)）にかかわる分野として

- (1) 死生学の研究史とその理論構築、および死生学の比較文化論的研究。
- (2) 祖先崇拜の理論研究ならびに比較文化的研究。

次に、中国古代における死ならびに死者に関する研究（上記(B)）にかかわる分野として

- (3) 殷・周・春秋時代の出土文字資料（甲骨・金文）を用いた中国古代宗教研究。
- (4) 戦国・秦・漢時代の出土文字資料（簡牘・帛書）を用いた中国古代宗教研究。
- (5) 戦国・秦・漢時代の儒家の「孝」文献に関する研究。
- (6) 戦国・秦・漢時代の儒家文献を用いた葬送儀礼、祖先祭祀研究。
- (7) 漢代の墓葬文書（告地策・鎮墓文・画像石・墓碑）に関する研究。
- (8) 殷周～隋唐時代における「死者性」の変化をあとづける宗教史学的研究。

現代の生命倫理に関する研究（上記(C)）として

- (9) 生命倫理言説の文化性に関する研究。
- (10) 現代中国における生命倫理・医療倫理言説に関する研究。
- (11) 伝統的中国医学（漢方）の医療倫理に関する研究。

伝統的価値観の現代における浸透の研究（上記(D)）として

- (12) 応用倫理という領域に宗教が与えている影響に関する研究。

c 概要と自己評価

この内、(2)(3)(5)は2001年度発刊の著書の中で系統的に見解を述べることができた。(1)(4)(6)(7)(8)(9)(10)についても、既に相当程度、体系的に研究を発表してきている。現在は(1)(9)(10)(12)が最も関心を持っている分野になっている。

一方、(11)は未だに萌芽的な研究にとどまっており、なかなか進展していない。中国の生命倫理、医療倫理に関する専門家は日本には殆どいないのが現状であり、その研究の意味は大きいと考えるので、その分野の研究に積極的に取り組んでいきたい。

d 主要業績

(1) 論文

池澤優、「儒教のお葬式」、『仏教文化』第54号、2016年3月20日、東京大学仏教青年会、45～66頁。

池澤優、「文化的差異の視点から死生学を考える」、『死生学・応用倫理研究』第21号、東京大学大学院人文社会系研究科、2016年3月15日、84～100頁。

IKEZAWA, Masaru, “Rapport du congrès international «Apres le desastre - commemoratives et culturelles»,” «Apres le desastre - commemoratives et culturelles», *Death & Life Studies and Practical Ethics*, the University of Tokyo, March 2016, pp.5-13.

池澤優、「中国における呪術に関する若干の考察—呪術という語の呪術的性格」、江川純一・久保田浩編『「呪術」の呪縛』、リトン、2015年3月31日、257～296頁。

池澤優、「国際シンポジウム「災害が遺したもの—語りつぐ記憶と備える文化」趣旨説明」、『死生学・応用倫理研究』第二十号、2015年3月15日、10～18頁。

池澤優、「生命倫理と伝統的文化—中国における知^{magic}情同意に関する論争を題材に」（日本生命倫理学会第25回年次大会大会長講演）、『死生学・応用倫理研究』第二十号、2015年3月15日、120～151頁。

池澤優、「死者とはだれのことか—古代中国における死者の記憶を中心に」、秋山聰・野崎歆編『人文知』第三巻（死者との対話）、東京大学出版会、2014年11月28日、23～42頁。

池澤優、「祀りと占いの世界」、中国出土資料学会編『地下からの贈り物—新出土資料が語るいにしへの中国』、東方書店、2014年6月30日、78～87頁。

(2) 教科書

東京大学生命科学教科書編纂委員会『現代生命科学』、羊土社、2015年3月15日。（担当：第11章「生命倫理はどこに向かいつつあるのか」、155～166頁。）

(3) 学会発表

海外、IKEZAWA, Masaru, “The Religiosity of Bioethical Discourses: An Examination from the Viewpoint of Cultural Diversity,” in XXIth Quinquennial World Congress of International Association for the History of Religions パネル “Representing Death and Life: Transitions, Diversities, and Contemporary Significance” (No.25-312), University of Erfurt, Germany, 2015年8月25日。

海外、IKEZAWA, Masaru, “Confucianism, Daoism, and Toshihiko Izutsu: Comments on ‘Rectifying Names’ (zheng ming 正名) and ‘Being Arises from Non-being’ (yu sheng yu wu 有生於無),” in XXIth Quinquennial World Congress of International Association for the History of Religions パネル “Toshihiko Izutsu and Oriental Religious Thought,” (No.27-306), University of Erfurt, Germany, 2015年8月27日。

(4) 会議主催(チェア他)

海外、XXIth Quinquennial World Congress of International Association for the History of Religions パネル “Representing Death and Life: Transitions, Diversities, and Contemporary Significance” (No.25-312) 企画・司会。University of Erfurt, Germany, 2015年8月25日。

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

國學院大學非常勤講師、2004.4～

(2) 学会

日本生命倫理学会、理事。日本宗教学会、理事。中国出土資料學會、理事。東方学会、評議員。

(3) 行政

東京大学医学部附属病院臨床試験審査委員会委員、東京大学医学部附属病院法的脳死判定委員会委員、東京大学生命科学ネットワーク運営委員会、幹事会委員。